

## 【実践事例（3）】

（石巻市立青葉中学校）

### タイムラインで、大雨の際の避難等を検討（浸水想定区域にある学校）

#### 学校の状況

- 学校は、大雨による洪水により、旧北上川からの浸水が0.5m～3m想定されている。
- 市の要配慮者利用施設に指定されている。
- 市の緊急指定避難場所に指定されているが、洪水時は校舎の「2階以上」とされている。
- 市の指定避難所に指定されている。

#### 取組方法

台風接近時における時系列の対応をタイムラインの手法を用いて、学校安全委員会（管理職、防災主任等）が中心となり以下のように検討した。

##### 1 校区の浸水想定等を確認

市のハザードマップを基に、洪水による校区の浸水想定や学校の立地等を確認

※洪水時は、生徒が居住するほとんどの地域で浸水が想定されていることを確認するとともに、浸水等の危険を伴う状況での登下校を行わないようにすることが確認できた。

##### 2 気象情報や河川の水位、避難情報の発表・発令状況を確認

気象庁が発表する気象情報や、対象となる河川の氾濫情報、さらに市から発令される避難情報から、どの時点で、授業打ち切りで引き渡し等による下校、臨時休業、校舎上階への避難等を判断するかを検討した。

##### 3 避難者への対応を検討

避難者の受け入れの準備（受け入れ場所（教室）の検討、対応者（教職員）の検討等）をどの時点で行うか検討した。

##### 4 専門家（学校防災アドバイザー）からの助言

タイムライン作成に係る留意点や配慮すべき視点、また、地域住民が避難してきた場合の、校舎2階以上への避難に係る対応を市防災担当部局や自主防災組織と協議しておくことの助言を受けた。

#### 今後のタイムラインの完成に向けて

今後、専門家の助言及び、市防災担当部局や自主防災組織と協議を踏まえ、実効性のあるものに見直し、教職員、生徒、保護者や関係機関等と共有を図っていく。

